

科目名	基礎看護Ⅲ (食事・排泄援助技術)				DP2 DP3 DP4 DP6		看護高等課程
学年	1 年	分野	専門 基礎看護 基礎看護技術	時間数	30 時間	担当教員	武田 玲子
科目 概要	基礎看護技術として、対象の生活の要素である食事、排泄と健康の関わりを理解する。また、患者にとって基本的欲求が充足でき、科学的根拠に基づいた日常生活援助技術が安全に提供できるように演習を多く取り入れた。消化管の解剖生理と関連させ、食事・排泄をする生活行動へ結びつける。						
到達 目標	1. 食事の意義を理解することができる 2. 消化器機能と摂食能力を捉える視点がわかる。 3. 食事介助時のリスクと予防方法がわかる 4. 安全に美味しく食べるための食事の工夫とその根拠を説明することができる。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1～6	食生活の援助		食事の意義と生活、食事の援助（食事の援助とは、援助の基礎知識、原則）、経管栄養法			講義 演習	武田
	口腔の清潔		口腔の清潔とは、義歯の清掃とは、援助の実際				
	経管栄養法		経管栄養法とは、口腔または鼻腔からのチューブの挿入と固定				
	食生活の援助演習		食事援助（事例を使って援助の立案と実施） 口腔ケアの実際（歯ブラシ・スポンジブラシ）				
7～14	排泄の援助		排泄の援助とは、排尿の援助、排便の援助、おむつ交換、摘便の援助、陰部洗浄				
	陰部の清潔		陰部洗浄とは、援助の実際				
	排泄の援助演習		排泄援助（床上排泄の方法・オムツ交換・摘便・陰部洗浄の実際）				
15	試験					試験	
評価 基準	100 点満点とし、6 割以上を合格とする。また、授業時間数の 3 分の 2 以上の出席が必要となる。						
評価 方法	出席状況と講義演習への参加態度、課題レポート、筆記試験などで総合的に評価する。 また、演習の内容によっては、シミュレーション演習、パフォーマンス課題、ルーブリックに基づき、ポートフォリオの内容等も総合的に評価を行う。						
教科書	看護学入門 6 基礎看護Ⅱ 基礎看護技術 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床 看護技術 医学書院 ケアに生かす 検査値ガイド第 2 版 疾患別看護過程の展開 必要時、資料等は配布する。						
履修上の 注意点							